

この3種類の他に、クロトウヒレン、ヒゲノガリヤス、イワイチョウ、モミジカラマツ、ミヤマセンキュウ、ハクサンボウフウ、オオバショリマなどが生育する。

ミヤマドジョウツナギーオクヤマワラビ群集は、融雪の遅い雪田の周りや、雪田底、雪田下部の流水あたりなどの、安定した緩斜面の粗腐植質の湿性地に生育する。分布は、夕日ヶ原(2070m)、劔沢、浄土沢、御山谷、タンボ平、浄土山、鬼岳、黒部五郎岳などで、オクヤマワラビ、ミヤマドジョウツナギ、オオバショリマ、ミヤマゼキショウ、ミヤマキンボウゲ、クロクモソウ、キバナノコマノツメ、ミヤマツボスミレ、アラシグサ、タカネスイバ、モミジカラマツなどが生育している。

カリヤスータテヤマスゲ群落は、深山、亜高山の多雪地で、勾配 $30^{\circ}\sim 40^{\circ}$ の急斜面に毎年雪崩があり、低木も生育しない立地に生育する。分布はイブリ山、僧ヶ岳、奥大日岳、人形山などである。カリヤス、タテヤマスゲの他、モミジカラマツ、ミヤマセンキュウ、オオバショリマ、ヒトツバヨモギ、コバイケイソウ、ヒゲノガリヤス、エゾシオガマなどが生育し、下層にマイヅルソウ、オオバキスミレなどが生育している。また、オオサクラソウの混生する群落もある。

#### (キ) 夏緑広葉樹林(ブナクラス)

ブナクラスは標高400~1800mに分布しており、チシマザサーブナ群団の植生が最も広く生育している。ブナの最低生育地は小矢部市小白谷(100m)、二上山(177m)、宇奈月町内山(200m)、倶利伽羅峠(277m)などである。

この群団の代表的群落はヒメアオキーブナ群集である。この群集は低海拔の400mから1000m以上の山腹斜面の、土壌が厚く適湿の安定した地形に多く生育する。早月川、上市川の上流、立山美女平、ブナ坂、ブナ平、真川上流、熊野川、長棟川源流、有峰や、八尾町、利賀村、上平村などの岐阜県境の山地などに広く分布する。

この生育地は古くから人の利用する地帯で、その多くはミズナラの二次林に変わっており、近年その二次林や奥地のブナ林が大規模にスギ植林地に変わっている。

この群集にはブナ、ミズナラ、シナノキ、ホオノキ、イタヤカエデ、トチなどの高木、ウワミズザクラ、ウリハダカエデ、コシアブラ、コハウチワカエデなどの亜高木、チシマザサ、エゾユズリハ、ヒメアオキ、コマユミ、ハイイヌガヤ、オオバクロモジ、ハウチワカエデ、オオカメノキ、ノリウツギ、ヒメモチなどの低木、シラネワラビ、ヤマソテツ、シノブカグマ、シンガシラ、オオバユキザサ、オクモミジハグマ、イワカガミ、ツルアリドウシなどの草本類など多くの種類が高頻度に生育する。この群集の下位群落にユキツバキ亜群集があり、ユキツバキ、ツノハシバミなどが生育する。ユキツバキは標高300m~900mに広く分布し、僧ヶ岳では1400mまで生育する。

マルバマンサクーブナ群集は、ブナクラスの中部より上限までの高海拔地に多く、比較的斜面勾配が強く、土壌が浅い風衝の尾根部などに生育する。分布は境川、黒部川本流、支流、片貝川、早月川、上市川などの源流地域である。

この群集にはブナ、マルバマンサク、アクシバ、アカミノイヌツゲ、ムラサキヤシオツツジ、トクワカソウ、ナナカマド、コミネカエデ、ツクバネソウ、マイヅルソウ、タムシバ、シノブカグマなど多くの種類が生育する。

この群集の生育地の尾根には、アカミノイヌツゲクロベ群集や、ヤマソテツスギ群集が混生し、また上限地域ではオオシラビソ、コメツガ、キタゴヨウ、ダケカンバなどが混生する。また、ツバメオモト亜群集にはタケシマラン、ミネカエデ、ツバメオモトなどが生育する。

ヤグルマソウウダイカンバ群落は、ブナクラス域の標高900~1200mあたりの自然崩壊斜面やその堆積急斜面に、先駆植生として一斉林が生育している。土地的条件によるブナ群落、トチ群落の代償植生になっている。

分布は黒部森石谷付近、黒薙川、樺平付近、真川上流、和田川足谷などである。

この群落には、ウダイカンバ、ブナ、イタヤカエデ、トチ、ヤマハンノキ、ハウチワカエデ、ツリバナ、アラゲアオダモ、ヤグルマソウ、カメバヒキオコシ、オオカニコウモリ、ミヤマベニシダなど多くの種類が生育する。

オクノカンスゲーチシマザサ群集は、亜高山からブナクラス上部までの、山稜風背地、浅い谷頭、緩い斜面や凹地などの、多雪地のためチシマザサ以外の樹木の生育が困難で、粗腐植質の適湿地に部分的に生育する。分布はイブリ山、長母山、朝日岳、清水岳下部、僧ヶ岳、早月尾根、大日岳下部、薬師沢、白木峰、金剛堂山などで、チシマザサ、ダケカンバ、オクノカンスゲ、オオバユキザサ、マイヅルソウ、ツマトリソウなど多くの種類が生育する。

オオバスノキーミネカエデ群落は、オオシラビソ群集、ダケカンバ群落の風衝面の周辺にソデ群落として生育している。この群落はミネカエデの優占する小群落で、長母山、朝日岳、奥大日岳、立山天狗平、薬師岳などに分布する。

マルバウスゴーチシマザサ群落は、弥陀ヶ原のショウジョウスゲ群落内のごく低い凸部に生育している。樹高30~50cmのチマキザサ(またはチシマザサ)、クロウスゴで構成され、五色ヶ原、太郎兵衛平、太郎山、上ノ岳の緩斜面にも分布している。

ツガ群団(常緑針葉高木林)のサイゴクミツバツツジツガ群集は、黒部峡谷の本流と、支流の黒薙川、小黒部谷、祖母谷などの300~1000mの角岩の突出した枝尾根や急斜面、岩崖の段面に限られて生育している。

高木では、ツガに混ってキタゴヨウ、クロベ、低木ではサイゴクミツバツツジ、ホツツジ、タムシバ、アカミノイヌツゲなど、草本層ではイワナシ、オサシダ、ミヤマイタチシダ、イワハゼ、シノブカグマ、ツルアリドウシなどが生育している。

また、ホンシャクナゲ亜群集には、ホンシャクナゲ、タカノツメ、トクワカソウ、オサシダなどが生育する。

キャラボク群落は、僧ヶ岳、白木峰、金剛堂山、人形山などに、ごくまれに帯状または

斑塊状に、2～8 mの低木または亜高木で生育している。僧ヶ岳では強い風衝地のため、風圧や雪圧により風背側に倒伏しているキャラボク、チシマザサ、アカミノイヌツゲ、マルバマンサク、ホツツジ、ミネカエデなどの低木が見られる。

サワグルミ群団のジュウモンジシダーサワグルミ群集は、ブナクラス域の沢筋の崩壊堆積地、崖錐台地、不安定な小扇状地などの、やや湿性地に溪谷林として生育する。黒部峡谷、片貝川、早月川、真川などの本流支流に分布し、県東部に多い。

この群集には、サワグルミ、カツラ、オヒョウニレ、ウリノキ、ミヤマニワトコ、エゾアジサイ、ミヤマイラクサ、ミヤマベニシダ、サカゲイノデ、リョウメンシダ、ウワバミソウ、ムカゴイラクサ、オシダ、オオサワハコベなど、高茎広葉草本が多く生育している。この群落の緩斜面下部や周辺より湿性地に低木のミヤマイボターヤブデマリ群落が見られる。また、類似の湿性地にサワフタギ群落、クロウメモドキ群落が生育することもある。

トチ群落は、サワグルミ群落の周辺、ミズナラ群落、ブナ群落の斜面下部の安定した緩斜面に生育する。黒部川、片貝川、早月川、真川、和田川、庄川の本流支流の谷部や、利賀村、平村、上平村の山中斜面に生育しているが、古くから用材として利用されているので、大群落は少なくなっている。

この群落の優占種はトチで、その他ミズナラ、ブナ、ケハリギリ、ミズキ、サワグルミ、キハダの高木、チシマザサ、オオバクロモジ、ハイイヌガヤ、ウワミズザクラ、ウリノキ、ツリバナ、ハナイカダなどの低木、ジュウモンジシダ、サカゲイノデ、ミゾシダ、ミヤマカンスゲなどの草本が生育している。

ハルニレ群団のハルニレ群集は、有峰盆地に注ぐ小さな氾濫原に生育していたが、湖底に沈み、今は単木的に生育しているだけである。楡原の神社の境内林も近年消滅してしまった。この群集にはハルニレ、ミヤマイラクサ、マイヅルソウ、オオタチツボスミレ、オオウバユリ、オシダ、ミヤマカンスゲ、イブキヌカボなどが生育する。

イヌシダークオナラ群団のオオバクロモジーミズナラ群集は、ブナ群落の下部に全果的に広く分布し、一部ブナ林の二次林として持続遷移の段階の高木林も見られる。近年スギの植林地に変わった所も多い。

この群落にはミズナラが優占し、イタヤカエデ、ヤマハンノキ、シナノキ、ホオノキ、ウリハダカエデ、ウワミズザクラ、コシアブラ、アズキナシ、コハウチワカエデなどや、低木、草本が多く生育し、出現数も40～60種と多い。

ホツツジーミズナラ群集は、峡谷の岩石突出部の土壌の浅い乾燥地に部分的に生育する。黒部峡谷、片貝谷、早月谷など県東部に多く、地形的極相林として分布している。この群落にはミズナラ、ホツツジ、サイゴクミツバツツジ、カクミスノキなどが生育している。

ホツツジークマンデ群集は、標高200～800 mの古生代地質の峡谷の、ホツツジーミズナラ群集の下部角岩地急斜面に、小面積で生育している。この群集にはクマンデ、ホツツジ、ホソバカンスゲ、ヒメジャガ、トクワカツウなどが生育している。

ヤマツツジーアカマツ群集は、扇状地、丘陵地、低山帯の稜線、枝尾根の凝灰岩質、安山岩、新第三紀の砂岩質の乾燥し易い立地に生育する。生育地は海岸線より標高 500～600 m までで、それより上部はヒメコマツ林になるが、鋺岳では 800 m、有峰では 1200 m まで生育している。

基岩の露出した瘦尾根に生育する天然林、その他大部分の二次林、丘陵地の一部に植林地などがあるが判別は困難な所が多い。また、海岸砂丘地、扇状地ではほとんど消滅したが、早月川扇状地の一部と、島尾海岸にわずかに残っている。

この群落には、アカマツ、ヤマツツジ、ソヨゴ、サイゴクミツバツツジ、アクシバの他、コナラ、ネジキ、ホツツジ、ヒサカキ、クルマバハグマ、シュンラン、シシガシラ、コシノホンモンジスゲ、オオバノトンボソウ、シュロソウなどが生育している。

オクチョウジザクラコナラ群集は、丘陵地から標高 300～400 m の低山の、主にヒメアオキウラジロガシ群集の生育域に、二次林として生育している。この群落は定期的な伐採や人為的影響を受けて持続してきた代償植生として広く残っている。

この群落にはコナラ、コハウチワカエデ、ホツツジ、サイゴクミツバツツジ、ヤマツツジ、ダンコウバイ、ショウジョウバカマの他、ユキバタツバキ、ヒサカキ、キンキマメザクラ、ヤマモミジ、ハイイヌガヤ、チャボガヤ、ヒメアオキ、ウスユキハナヒリノキ、ミヤマナルコユリ、トキワイカリソウなどの多雪地の日本海要素の植物が多く生育する。

この群落の適湿の北斜面などにチマキササヤカタクリの多い群落が形成される。古くからスギの植林地の大部分はコナラ群落の生育地で、クリーコナラ群落の二次林になっている場合もある。

ウラジロヨウラクミヤマナラ群団の、ウラジロヨウラクウラジロハナヒリノキ群集は、標高 1000～1900 m の山稜などの冬期季節風の風衝地で、オオシラビン群集、クロベ群落のソデ群落として、まれに生育する。駒ヶ岳、大山町鉢伏山、東笠山などに分布する。この群集のハナヒリノキはウスユキハナヒリノキの場合が多い。

ミヤマナラ群集は、標高 1700～1900 m の中級山地山稜の、風衝低木群落として生育し、弥陀ヶ原、大山町鉢伏山、東笠山などに分布している。この群集にはハクサンシャクナゲが生育している。

ケヤキ群団のチャボガヤケヤキ群集は、ヒメアオキウラジロガシ群集の生育する岩崖や岩石急斜面に接続してか、これより上流の溪谷の岩崖や急斜面に部分的に生育している。

この群集は、県内の河川の下流中流の谷間に広く分布し、ケヤキ、チャボガヤ、シナノキ、サワシバ、ハクウンボク、メグスリノキ、ヒメリシズカ、ハルユキノシタの他、日本海要素植物が多く生育している。

ケンボナシケヤキ群集は、チャボガヤケヤキ群集の生育地の下部から海岸地域までの台地の斜面下部、浅い谷間の斜面下部や、堆積地などの適湿地に部分的に生育している。

全県の山間部落の周辺に多く、ケヤキ、ケンボナシ、オニグルミ、ヤマブキ、コシノホンモンジスゲ、オクマワラビ、ヤブソテツなど多くの植物が生育している。

シラカバ群落は、ブナ林、ミズナラ林の伐採跡地に二次林として生育しており、有峰、大山町原の白樺平、長棟川源流の盆地、立山カルデラ入口付近の崩壊荒地に分布している。この群落にブナクラスの樹木、草本が生育している。

ミヤマシシウドーオオイタドリ群集は、亜高山帯や山地帯の深山に多く、県東部の峡谷、立山カルデラ、有峰などに特に多く分布している。この群集にはミヤマシシウド、オオイタドリ、オオハナウド、オオヨモギなどの植物が生育している。また、オオイタドリは常願寺川支流の小口川以東の、亜高山帯から海岸まで広く分布している。

ハクサンカメバヒキオコシーアカソ群集は、低山から深山までの山麓崩壊地などの、やや乾燥貧栄養地に生育する。県内全域の谷間に小面積で分布しており、アカソ、カメバヒキオコシ、ナンブアザミ、ケイタドリ、オオヨモギ、テンニンソウなどの多くの植物が生育している。また、深山の堆雪地にクロバナヒキオコシーヤマヨモギ群集も生育することがある。

フジアザミーヤマホテルブクロ群集は、崩壊急斜面で砂礫の少しづつ移動する崖面の、陽光地にまれに生育する。植被率も種類数も少なく、県西部に点在するだけである。

#### (ク) 沼沢林(ハンノキクラス)

ツリフネソウーハンノキ群集や、カタコブシーハンノキ群落は、扇状地末端の湧水地や低山、丘陵地谷間の湿性に部分的に生育しているが、これらの群落は近年急激に減少してきている。

ヤチダモーミヤマカワラハンノキ群落は、ハンノキの代りにミヤマカワラハンノキの生育する群落で、上市町流水池の湿地(標高 670 m)に 1ヶ所見られるだけである。

ヤマドリゼンマイーハイイヌツゲ群落は、山間谷間の湧水湿地に小面積に生育している。ハイイヌツゲ、ノリウツギ、ヤマドリゼンマイ、オオミズゴケなど生育している植物は少なく、立山町常楽園、上市町東種、利賀村、上平村などに分布する。

ノリウツギーサワスギ群落は、山地の湧水湿地や、扇状地末端の旧河道湧水湿地に生育する。入善町沢スギ林、上市町流水池、立山町白岩川源流ミズバンショウ生育地などに分布し、アシオスギ、ノリウツギ、ヤマドリゼンマイ、ハイイヌツゲ、ショウジョウバカマ、オオミズゴケなどの、わずかの植物が生育している。

#### (コ) 河畔林(オノエヤナギクラス)

扇状地末端部の湿地や、デルタの河川敷の周辺にカワヤナギ林、扇状地末端部や用水周辺にアカメヤナギ林、扇状地末端部から扇央あたりまでの用水周辺などにシロヤナギ林、扇央から扇頂谷間までにコゴメヤナギ林、山麓谷間の入口付近から、標高 1000 m までの溪谷湿地にオノエヤナギ林がそれぞれ生育する。

カワヤナギ林は神通川河口付近に、コゴメヤナギ林は入善町墓ノ木の黒部川河川敷に、

オノエヤナギ林は立山カルデラ泥鰯池周辺に多く分布している。

また、イヌコリヤナギ群落は扇状地河川敷や山麓崩壊乾燥地に生育しているし、ネコヤナギ群落は扇状地河川の流路周辺、急流の用水周辺、谷川の流路周辺に広く生育している。

ドクウツギーアキグミ群集は、扇状地河川敷や海岸砂丘に生育し、砂礫流量の多い急流の暴れ川河川敷ほど広く生育する。このような河川敷の先駆植物はカワラハハコ群落で、冠水をするとアキグミ群落になる。その上へ砂などが堆積すると富栄養になるので、ヤナギ群落になるが、それ以前にコマツナギ群落になることもある。

県内の河川は河床の氾濫原が発達していない欠床谷が多いので、ドロノキ群団のオオバヤナギードロノキ群集の生育地はまれである。欠床谷が形成されるのは、県内の各河川の峡谷は水量が豊富で、高海拔から急激に流れ落ちる急流の侵食峡谷（V字谷）のためである。

この群集は常願寺川上流の真川の流域の堰堤による河川敷、立山カルデラの水谷、多枝原台地などに分布し、適湿地、湿性地にオオバヤナギ群落、やや乾燥地にドロノキ群落が生育している。

コマダケスグリーオオバヤナギ群落は、黒部川源流、雲の平南斜面の祖父沢、祖父平、黒部五郎沢の河川沿いなどの河床氾濫台地（2000～2200 m）に、小面積ではあるが点在している。高木にオオシラビソ、ウラジロモミが混り、亜高山の低木草本が生育している。

タニウツギ群団は、山腹急斜面の崩壊斜面や堆積台地、また林道建設の削土の法面やその堆積土の乾燥地、適湿地に低木性の植物群落が生育している。

タニウツギーヤマハンノキ群集は、山地崩壊斜面や人工の乾性な斜面に、標高100～800 mの範囲で小面積ながら全県的に分布している。この群集はタニウツギ、ヒメヤシャブシ、キツネヤナギの優占度が高い。

ウワバミノウミヤマカワラハンノキ群集は、湿性な山地崩壊斜面やその堆積地に、低木群落として生育し、小面積ではあるが、全県に分布している。この群集の低木草本の植被率は多く、高茎広葉植物が多く生育している。

#### (ウ) 高層湿原植生

富山県には、高標高地の緩斜面にいくつかの広い溶岩台地がある。そこには数多くの池塘が広範囲に散在する湿原が見られる。また、湿原は二重山稜底にも見られる、これらの池塘内や周りに、多様な高層湿原植生が生育しているが、溶岩台地の池塘は基岩が溶岩のため、一般に夏期に減水するか、干し上ることが多い。

ミヤマイヌノハナヒゲワタミズゴケ群集は、立山弥陀ヶ原や五色ヶ原などの火山台地、黒部川原流の高天原、大山町鉢伏山、東笠山、八尾町白木峰などに分布する。ミヤマイヌノハナヒゲ、モウセンゴケ、ワタミズゴケなどで池塘堤を作り、池塘堤は幅10cmから3 m、高さは10cmから50cmに達する。この中にヌマガヤ群落の植物やウツクシミズゴケなども生育する。

ヤチカワズスゲーキダチミズゴケ群集は、立山鏡石平、天狗平、五色ヶ原などに分布している。ヤチカワズスゲ、モウセンゴケ、キダチミズゴケ、ヌマガヤ群落の植物が生育しているが、池塘堤は前群集ほど大きくない。

ミカズキグサーミヤマイヌノハナヒゲ群集は、弥陀ヶ原、東笠山の池塘周辺や、それに続く湿地に分布し、ミヤマイヌノハナヒゲ、ミカズキグサ、モウセンゴケ、ヤマトキノウ、アサヒランなどが生育する。

ダケスゲ群集は池塘堤や、浅い池塘内に生育し、朝日岳、立山弥陀ヶ原、高天原、東笠山などに分布する。この群集にはダケスゲ、キンスゲ、ワタスゲ、エゾホソイ、ミズゴケなどが生育している。

また、ハクサンスゲ群落は、清水岳、立山浄土沢に分布する。

オオイヌノハナヒゲーヤチスゲ群集は、黒部川祖母谷から唐松岳への登山道の餓鬼山中腹の、餓鬼の田圃の湿地に生育する。この群集には、ヤチスゲ、オオイヌノハナヒゲ、モウセンゴケ、エゾシロネ、ホソバミズゴケなどが生育している。

ミヤマホタルイ群集は池塘内に株状に生育しており、大日平、弥陀ヶ原、太郎兵衛平、高天原などに分布している。また、エゾホソイ群落は、鏡石平、天狗平、室堂平などの夏期に乾燥する池塘に、ヒメホタルイ群落は弥陀ヶ原などに分布する。

#### (シ) 中間湿原植生(ヌマガヤ群団)

溶岩台地や、標高 2000 m 前後の深山の山頂、山稜などの緩斜面の、粗腐植質の湿地や湿性地に中間湿原植生が生育する。

イワイチョウーヌマガヤ群集は、立山弥陀ヶ原、天狗平、五色ヶ原、雲の平の溶岩台地、朝日岳北部の黒岩平、夕日ヶ原、高天原、上ノ岳などの二重山稜、鉢伏山、東笠山など、広い範囲に分布している。この群集にはヌマガヤ、イワイチョウ、ナガボノワレモコウ、イワショウブ、タテヤマリンドウ、ワタスゲの他、チングルマ、キンコウカなどが生育している。

イワイチョウーショウジョウスゲ群集は、亜高山帯から高山帯の緩斜面台地や、山稜東側風背堆雪地の緩斜面に生育する。共に融雪がやや遅く、低木の生育困難な所である。長母山、夕日ヶ原、朝日岳、鉢岳南麓から三国峠、清水平、太郎兵衛平、薬師岳、太郎山、北ノ俣岳、東笠山などの山稜山腹斜面や、大日平、弥陀ヶ原、天狗平、室堂平、五色ヶ原、雲の平などの溶岩台地に広く分布している。

この群落には、ショウジョウスゲ、イワイチョウの他、チングルマ、イワショウブ、ショウジョウバカマ、ミツバオウレン、コイワカガミ、コバイケイソウ、ミヤマリンドウ、シラネニンジンなど多くの植物が生育している。

この群集の生育地で、わずかに地下水が湧水して流れる緩斜面の湿地に、ヒメジャクナゲ群落が生育し、ミズゴケ、モウセンゴケも生育する。この群落は太郎兵衛平、東笠山、小白木峰に分布している。

これに似た湧水のやや多く流れる湿地にキンコウカ群落があり、夕日ヶ原、鏡石平、太郎兵衛平などに分布する。

ミズギクヌマガヤ群集は、常願寺川の支流小口川の源流、祐延湖の東側と西側の西俣谷入口の、湧水緩斜面に生育するミズギクの優占する群落である。ミズギクの他、ヌマガヤ、モウセンゴケ、キンコウカ、イワショウブなどの植物が生育している。

タカネクロスゲ群落は、朝日岳小桜ヶ原（標高2000m）などの二重山稜底の、粗腐植質が厚い、わずかに湧水の流れる過湿地に生育する。この群落にはタカネクロスゲ、イワイチョウ、キンスゲ、ヤチカワズスゲの他、ハクサンオオバコ、ハクサンコザクラ、シラネニンジンなどが生育する。

キンスゲ群落は雪田底、積雪融水路沿、二重山稜底などの過湿地に生育し、僧ヶ岳、長楯山、小桜ヶ原、浄土沢、黒部川源流などに分布する。

カワズスゲ群落、ミノボロスゲ群落も二重山稜底などの融雪多湿地に生育する。

ミヤマイ群集は、高山の雪田湿地や融雪水の流水周りに生育し、劔沢、浄土沢、五色ヶ原、太郎山、黒部五郎岳、水晶小屋南、獅子岳、清水岳などに分布している。

この群集にはミヤマイが優占し、ハクサンボウフウ、ヒロハノコメススキ、キンスゲ、イワイチョウ、ミヤマキンボウゲ、シラネニンジン、アラシグサ、クロクモソウ、モミジカラマツなどが生育し、このうちの2～5種が多く出現する。

この群落に続いて、やや乾燥した似た環境の所にヒロハノコメススキ群落が分布し、朝日岳、浄土沢、五色ヶ原などに生育している。

ミズゴケアセスゲ群落は、山中の池やその周りの浮岸に生育している。このような池は、池中や周囲から地下水が湧水する池で、上市町つぶら池、平村猫池に浮島として見られ、上平村小瀬の池の平の池では浮岸のみが見られる。この群落にはアセスゲ、ミズオトギリ、ミツガンワの他、ヒメシダ、ドクゼリなどの地下茎がからみ合った中に、オオミズゴケまたはホソバミズゴケが生育して浮いている。

ミツガンワ群落は、朝日岳北部の黒岩平の池塘（1640m）、魚津市小菅沼（360m）、上平村小瀬（800m）、劔岳池ノ平（2000m）などの湧水する池の中に、純群落として生育することが多い。また黒部市石田の海岸に近い湧水池にも生育する。

ドクゼリ群落は、上市町流水池、つぶら池の湧水の細流周りに生育し、ドクゼリの単純群落か、優占する群落である。この群落には、ドクゼリ、エゾシロネ、サワオグルマ、イワアカバナ、ヌマハリイなどが生育している。

オオイヌノハナヒゲオオミズゴケ群落は、山地の陽光凹地へ地下水が流入するか、わずかに湧水する湿地に、始めはミズゴケの単純群落か、モウセンゴケの混生する群落として生育し、後にオオイヌノハナヒゲの優占する群落になる。分布は利賀村谷内谷、上市町高峰山、八尾町深谷などで、オオイヌノハナヒゲの他、ミカツキグサ、ミズオトギリ、エゾシロネ、カサスゲ、トキソウ、ヒメシダ、ミズゴケなどが生育する。



オオミズゴケヤマドリゼンマイ群落は、オオイヌノハナヒゲミズゴケ群落に似た環境に生育する。利賀村谷内谷、上平村小瀬などに分布し、ヤマドリゼンマイ、オオミズゴケ、エゾシロネ、ミズオトギリ、トキノウ、カサスゲの他、ハイイヌツゲ、ノリウツギの幼樹も生育する。

低層湿原植生(ヨシクラス)の、ウキヤガラマコモ群落は氷見市十二町瀧に、サンカクイーコガマ群落、ミクリ群落、セリークサヨシ群落、カサスゲ群落、チゴザサーアゼスゲ群落、ヒライーカモノハシ群落は平地、山間の池沼、用水の周辺や谷間の湧水湿地に生育している。

オギ群落は高河川敷や湿性の堤防などに生育し、ツルヨシ群落は、急流用水、扇状地河川敷の流路周りに生育する。

#### (ス) 湧水縁植物群落

高山から低山までの湧水の細流から、谷川の流水縁に好湿性植物が生育する。

リュウキンカーミズバショウ群集は、山地帯から亜高山帯の湧水縁に生育している。亜高山帯での生育地は、朝日岳(標高2050m付近)、薬師岳(標高2330m付近)、岩苔小谷(標高2500m付近)で、その他水無平などでも小範囲に生育している。この群落にはミズバショウ、リュウキンカの他、オクヤマガラシ、ミヤマタネツケバナなどが生育し、祐延湖畔ではキセルアザミが混生している。また、深山などの湧水の停滞水域にミズバショウ単純群落が分布していることもある。

アイバソウミズバショウ群落は、標高1200~1400mの山地の、やや広い湧水地の湿地に、ミズバショウ、アイバソウ、エゾシロネなどが生育しており、魚津市池尻の池、祐延湖西谷、水無平などに分布している。

ヨシミズバショウ群落は、標高800~1000mあたりの群落で、ヨシが生育し、エゾシロネ、タチアザミ、オオニガナなどヨシクラスの植物が混生している。白岩川源流域、縄ヶ池など広い範囲に生育し、ヤナギ類が侵入している。

チョウジギクータヌキラン群集は、山地峡谷の崖面や急斜面などの流水周辺に小群落で全体的に分布し、タヌキラン、チョウジギク、イワショウブ、ショウジョウスゲ、ダイヤモンドソウ、オオバギボウシなどが生育している。低山山地の似た環境にダイヤモンドソウ群落があり、薬師沢などの標高1800~2250mの亜高山帯に、ミクリゼキショウ、イワショウブ、モウセンゴケなどの生育するミクリゼキショウ群落がある。また、薬師沢や裕延湖付近、水無平などにタヌキランの入らない、チョウジギクサトスゲ群落があり、標高100~400mあたりの谷間の岩石崖細流域に、タヌキランの単純群落か、サワオトギリ、ダイヤモンドソウなども混生するタヌキラン群集が広く分布している。

フキユキノシタ群集は、鷲羽岳周辺の細流、黒部川の源流域、針ノ木谷上流、それより上流の黒部川右岸、薬師沢、北又谷上流の岩石崖の、湧水のしたたり落ちるところに純群落分布している。まれに、ミヤマダイヤモンドソウ、またはダイヤモンドソウ、イワアカバ

ナなどが混生している。

オオバタネツケバナ群集は、山地の湧水周りに純群落として小面積に生育している。北又谷、小川上流、片貝川南又谷、八尾町各河川の上流に分布し、入善町沢スギ林内の湧水流などでは、この群落にホソバノヨツバムグラが生育している。

オオバミゾホオズキーオタカラコウ群落は、山地深山の湧水細流周りに小群落で生育している。似た環境にクロクモソウの単純群落も広く分布する。

ミツデウラボシーイワタバコ群落のイワタバコの生育地は少なく、ダイヤモンドソウが混生し、八尾町谷折、平村祖山、相倉などに分布する。

#### (七) 常緑広葉樹林(ヤブツバキクラス)

このクラスの潜在分布域は、富山湾の海岸部から、山麓谷間、丘陵地の標高300～350 mまでの全域である。現在、この地域は水田、畑地、植林や人為施設にほとんど利用され、ごく一部分境内林、保存林、保安林として自然植生が残存しているだけである。

ヤブコウジースダジイ群集は、県西部の氷見地方と、県東部の朝日町宮崎地方のみに分布している。それも海浜に近い山麓急斜面や、枝尾根の末端部に部分的に生育し、社寺の境内林や保安林になっている。

アカガシ群落は、標高200 mの大沢野町寺家公園の内陸部まで生育しているし、モチノキ群落は氷見海岸地域と、呉羽駅近くの社の境内林として生育している。

イノデータブ群集は、スタジイ群落に続いた斜面下部や、崖下の土壤が深く肥沃で、適湿に保たれているところに生育し、氷見地方と朝日町宮崎の丘陵山麓にまれに分布している。また、氷見地方にはヤブニッケイ群落もまれに生育する。

マサキートベラ群集は、氷見地方の阿尾城址などの海水面に接した岩壁に部分的に生育している。

シロダモーケヤキ群落は、洪積台地の河岸段丘の崖側急斜面などの、肥沃な適湿地に生育し、朝日町下山新などの黒部川河岸段丘や、魚津市大海寺野新、立山町野沢などに部分的に分布している。シロダモ、ケヤキの他、アカメガシワ、ケンボナシ、ヤマイトチシダ、キッコウハグマ、ナキリスゲ、オクマワラビ、ベニシダ、ジャノヒゲなどが生育している。

ヒメアオキーウラジロガシ群集の潜在植生域はこのクラスで最も広く、上限はブナクラスに連続している。今は、標高400 mまでの丘陵地斜面に社寺林としてわずかに点在し、扇頂の谷間入口から上流の角岩、集塊岩、砂泥岩の岩石崖に崩壊防止の保安林として残存しているだけである。分布は、黒部川の愛本宇奈月、神通峡谷、宮川峡、小河川の境川、布施川、熊野川、久婦須川、室牧川、山田川などの岩石崖で、この群集にはユキバツバキが生育している。

#### (八) 海浜砂丘植物群落

富山湾沿岸は、かって100～200 m幅の緩い傾斜の砂浜が広がり、その後には比高2～5 m、時には入善町園家山のように標高17.4 mもの砂丘へと続いていた。現在は急激な海岸

侵食により、これらの砂浜は減少または消滅したりして、後背地のマツ林も無くなった所も多い。残存している海浜植物の生育地は、入善町園家山、芦崎、黒部市荒俣、石田、大島、富山市常願寺川河口から岩瀬、神通川河口から打出までと、高岡市雨晴、氷見市島尾海岸などである。そこにはオカヒジキクラス、ハマボウフウクラス、ハマゴウクラスの諸群落が生育する。

(タ) その他の植物群落

ススキクラスにはススキ群落、シバ群落があるが、ススキ群落は萱葺き屋根時代の刈取草原の二次草原であったが、今は必要性がなく、崩壊地、荒地、造成地、用水周りなどに部分的に生育している。

ヨモギクラスにはアキノノゲシーカナムグラ群落、ユウガギクーヨモギ群落、カワラヨモギーカワラハハコ群落があるが、路傍、造成地、荒地、堤防、河川敷、放棄田など随所に、二次草原として生育している。県内の河川は急流の暴れ川であるので、どの河川も広い河川敷を持っている。ここには広いアキグミ群落と、その前遷移のカワラヨモギーカワラハハコ群落が生育している。この間にはコマツナギ群落、チガヤ群落、メドハギ群落なども生育している。

オオバコクラスには、ニワホコリーカゼクサ群落、オオバコ群落その他の群落がある。

イネクラス、シロザクラスの群落も家庭の周囲に広く見られる。

ヒルムシロ、コウキクサクラスの群落は、近年土地改良、用水の改修などで減少したが、小面積の群落は、主にデルタ地帯や山間の池沼にわずかに見られる。